

# 意欲的に学習や生活に取り組む子

— いもほり宿泊を通して —

臼 田 季 微 子

## 1. はじめに

一般的に精神薄弱児は知能発達の遅れのみでなく、身辺生活の処理や集団生活への参加など、適応行動の面でも障害がみとめられ、生活能力が低いといわれている。特に乳幼児期では、①感覚・運動機能の発達、②意志の伝達機能、③身辺処理機能、④社会性（他人と関る能力の発達）の領域に顕著にあらわれる（注1）。本児もここでいわれているように、手指の機能が未発達な上、気力も乏しいので衣服の着脱など身辺処理の能力がかなり劣っており、また興味・関心の範囲が限られているため、学習意欲が乏しく持続して取り組むことが困難である。このような本児が、少しでも自主的に生活できたり、喜んで学習に取り組んだりできるようにするため、生活単元学習 — いもほり宿泊を通して実践したことを述べてみたい。

## 2. 本児の実態

○氏名 A・O S 51. 1. 26生 10歳 女子

○障害 — 難治性てんかん・精神発達遅滞・左目斜視

○生育歴 — 正常出産で出生時の体重は3,300gである。乳児期の発達状態はあまりよくなく、首のすわりが5～6か月、歩き始めが2才7か月である。2才5か月の時、高熱によるひきつけをおこしており、5才3か月の頃より現在までてんかん発作が続いている。

○発作の状況 — 4～5秒くらいの目つむり発作。おなかかふくらんでかたくなり、じっとしてからほっとしておさまる。注意して見ていないとわからないことが多い。朝など、眠気のある時に起きやすい。入学時は頻発して発作がおきていたが、現在は少なくなっている。

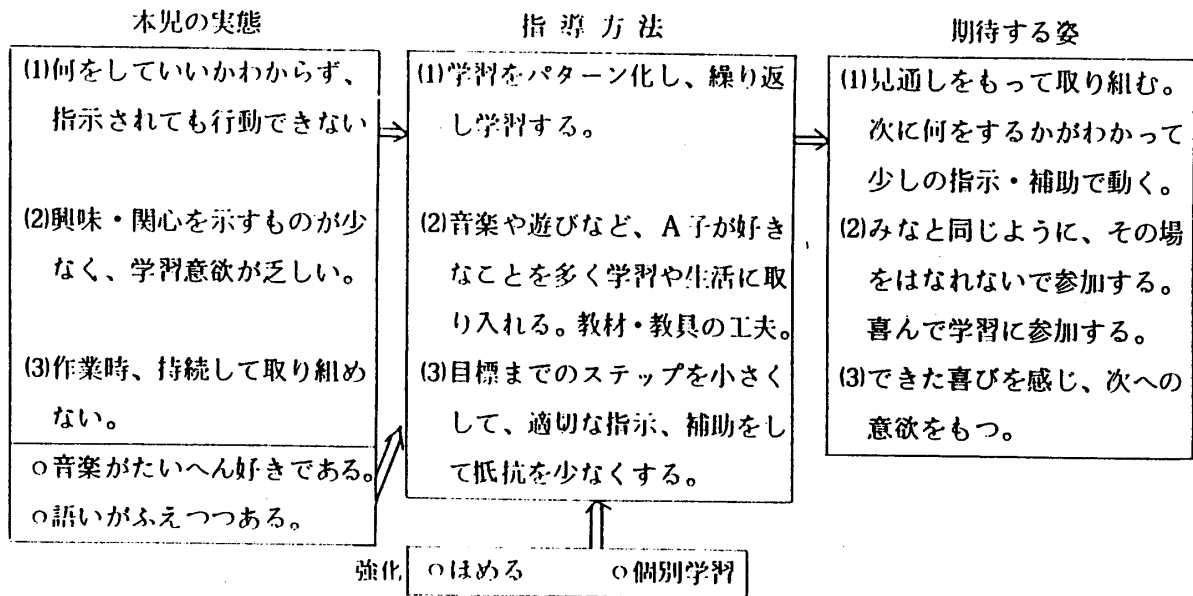
○知能（遠城寺式発達検査） — 移動運動 2：2 手の運動 1：8 基本的習慣 2：8  
対人関係 1：9 発語 1：9 言語理解 1：2

○性格・行動上の特性、学習の実態

- 感情が豊かで喜びを全身で表現する。特に音楽が好きで、気に入った曲がかかるとリズムに合わせてとんだり足ぶみをしたりする。
- 興味・関心を持ったことには少しは取り組もうとするが、持続力に欠け、特に作業的な内容になると、「もういい」「できた」と言ってやめてしまう。
- 着席行動が難しく、また机が前があるとねそべってしまうことが多い。
- 指示されたことが行動となってあらわれてくるまでに時間がかかり、さらに促したり無理じいしたりすると、すわりこんで動かなくなる。
- 視力が弱く、視線が合わないため、目と手の共応が難しい。身辺処理は確立していない。
- 動物に興味をもち、語いがふえつつある。

### 3. 取り組みの概要

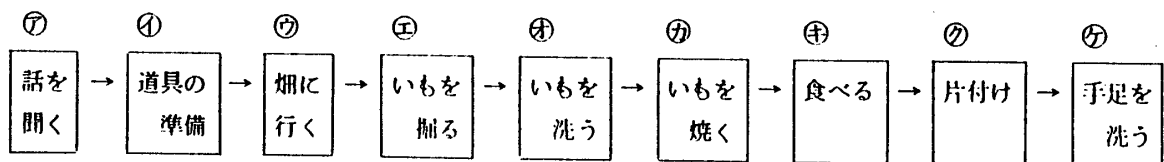
知能面でも精神面でも発達の遅れているA子が、集団の中で、みなと同じように喜んで学習に、あるいは生活に取り組むためには、(1)見通しをもって行動できること、(2)今しているそのことが好きであること、(3)できたという成就感を味わうこと、が大切であると考えられる。そこで、次のような指導仮説をたてて取り組むことにした。



小学部2組は、年間3回の宿泊学習を計画している。1回目は「炊飯宿泊」、2回目は「水あそび宿泊」、そして、3回目がこの「いもほり宿泊」である。この宿泊学習では、衣服の着脱の仕方など身辺処理の能力を高める、先生や友達と一緒に学校に泊って好ましい人間関係を育てる、いもほり遊びをして手指の感覚機能を高める、などのことをねらいとしている。学習内容はたくさんあるが、いもほりを中心にまとめたい。

### 4. 実践例 — いもほり

#### (1) いもほりの学習を



というパターンにし、宿泊当日までに5回繰り返しをした。また、それぞれの場所も、㊦㊧教室 → ㊨㊩畑 → ㊪テラス → ㊫砂場 → ㊬㊭ベンチ → ㊮清拭室というように固定しておき、学習の流れと場所とが結びついて意識化されるようにした。初めの頃は、畑に行っても何もしないですわっていたA子だが、学習が進むうちに、畑を見ると「あった、いもだ」と言って土を掘り始めたり、とれたいもをテラスにおいてあるたらいに入れて洗い始めるなど、断片的にはあるが、見通しをもった行動が少しはとれるようになっていった。

(2) 畑に行く時の歌、いもを掘る時の歌、いもを洗う時の歌というようにテーマ曲を決めて、歌いながら行動することはA子にとって大切であると考えた。行動がスムーズになると同時に、歌いながら気分がのっていきようだ。また、いも掘りを、土遊び・水遊び的なものとし、ただいもを掘り出すことを目的にするのではなく、シャベルを使って土を掘ったり、土をバケツに入れたり出したり、土をかけていもをかくしたり、また、手で土を掘ったり、たたいて平らにしたりといった過程を重視し、大いに遊ばせることとした。いもを洗う時も、きれいにすることだけが目的ではなく、皮がむけて白くなるまでごしごしとこすったり、水の中をぐるぐるかき回したりといったことも認め励まして、遊びながら喜んで学習に取り組めるように配慮した。それが、ひいては、指先の巧緻性や道具を使いこなす力となってあらわれてくると思われる。この単元では目立った変化はみられなかったが、いもを一つとったらもう満足したというふうに自分一人だけで帰ろうとしていたA子が、終わりと言われるまでいもを掘ったり土をすくったりするようになった姿に、少しは集中して取り組めるようになった様子がかがわれた。特に、友達のまねをして、いもに土をかけてかくした模倣行為に進歩が見られた。

(3) 導入段階での動機づけが後の学習に影響を与える。毎回導入時にはやきいもを準備しておき、少し食べさせることによって、**おいしい** → **いもを掘りに行こう** → **やきいもをしよう** といった意識づけをはかるようにした。初めのうちはいもを見せても無反応だったが、しだいに、「やきいもが欲しい人」と聞かれると「はい」と手を挙げるようになり、次には、いもを見ると「ほしい」「うまい」といった発言をするようになった。しかし、それが学習の最後まで、つまり、いもを洗って焼かなければ食べられないというところまで意識化されていなかったようだ。

持続して取り組めるよう、目標達成までのステップを小さくしておき、その都度、適切な指示をしたり、補助（例えば、いもを掘り出しやすいよう前もって土を柔らかくしておく → 少し堅めにしておき、いもの姿がよく見えるようにしておく → 少し見えるようにしておき、指さして視線を合わせる）をしたりすることも大切である。手をそえるようにしないといもを掘らなかったA子も、いものまわりの土をシャベルで掘ったり、指先に力を入れていもを掘りおこしたりすることも見られだした。ほめられると手をたたいて喜ぶA子。がんばった時、上手にできた時は必ずほめ、次への意欲をつなぐようにした。



いも掘りをするA子

ほめられると手をたたいて喜ぶA子。がんばった時、上手にできた時は必ずほめ、次への意欲をつなぐようにした。

※ いもほりでの姿容の姿

学習の流れ	1 回 目	3 回 目	5 回 目
話を聞く	・机にうつぶせて話を聞く。 27にちながぐつの・の部分 を発言する。	・欲しい人と言われても、「い らん。いいもん。」といった 言葉。	・やきいもを見ると、「おいし い。欲しい」といった言葉。

道具の準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピーと笛が鳴ってもすわったまま、何度か促されて取りに行く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の子がとび出していった後で取りに行ったが、前回より早かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勢いよく走って行ったが何をとるかかわからず。指示されてとる。</li> </ul>
畑へ行く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行く途中ですわりこんで、自転車道のあたりで土を掘り始める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「行こう行こういも掘りへ」の歌をきいてテンポよく歩いて行く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いて、いて」と歌いながら歩いて行く。</li> </ul>
いも掘り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・じっとすわったまま、いもの姿を見せて指示する手で掘り始めた。1つとるともういいと言い、いもは外に出してバケツに土を入れて人がまだしているのに掘りかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手で掘ったりシャベルで掘ったりして、いもを3つとった。土もバケツに入れたが、いもいっしょに持って帰った。落ちたいもを拾ってバケツに入れた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いも畑を見て「あつた、いも」シャベルで掘りながら、「ここだ。いっばいある」などの声。帰ろうとの指示で「できたよ」といもをバケツに入れて帰る。</li> </ul>
いもを洗う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さいいもをたわしてごしごしこすっていたが、すぐたわしをはなして、水の中に手をつっこんで遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バケツを持って教室に入ろうとする。たわし→はけを渡すと、少しの間水をかきまぜていたが、あきて「しない。もういい」。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テラスに置いてあるたらいにいもを放りこんだが、そのまま教室へ。もどってはけを右手、左手と持ちかえて水をかき回す。</li> </ul>
やきいも	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いもを焼く間、後ろ向きにすわってすねていたが、声かけに「はい」ととんて来る。じっといもを見る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やきいもの歌を歌わないで、はーとしている。ずっと「いらん」と言っていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いらない」と教室に入ろうとする。やきいもを見て「あ、いも、まだな」と言う。</li> </ul>
食べる 片付け 手足を洗う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「うまい」と言って食べる。</li> <li>・補助されて。</li> <li>・じっと立ったままでふかず。清拭室を出ようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ほしい」と言ってもらう。</li> <li>・補助されて。</li> <li>・友達がタオルを持つのを見て自分もタオルを取りに行く。股の間をちょっとふくかっこうをしただけ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おいしい。あつい。ほしい」</li> <li>・指示されて。</li> <li>・ちょっとふくかっこうをして、すぐタオルを手放す。</li> </ul>

(4) 個別学習では、主に学習テープを利用した。宿泊の日程の流れをテーマ音楽といっしょにふきこんだもので、3回目ともなると内容をよく覚えていて、「どこでねるの」の曲がかかると「ねんね」と言ってかごを持って和室へ向かう、持ち物の名前やいっしょに泊まる人の名前の一部を言うといったぐあいに、スムーズに行動していた。

## 5. まとめと考察

学習をパターン化し、繰り返し学習することによって少しは見通しをもって参加できるようになるとともに、A子の活動量もふえてきた。行動と言葉が一致し、学習に関連のある言葉を発しながら意欲的に取り組む姿も見られた。しかし、集中力・持続力はまだまだ不十分で、「もういい」と拒否することもよくあるので、今後もさらにA子の興味・関心を広げるとともに、教材・教具の工夫をして意欲的に取り組めるようにしていかなければならないと考える。活動量がふえ、語いがふえつつある現在をとりえて、知能面、精神面での発達を促していくため、引き続き繰り返し学習による定着をはかると同時に、個別の時間を利用したドリル学習で補強をはかっている。全身的活動を大いにさせる一方で、手指の感覚訓練などもしていく必要があると思われる。指示に従って行動することができつつあるので、ここで学習したことを生かし、日常生活指導にも重点をおいて身辺処理の能力を高めていきたい。



着がえをするA子